

2024 REPORT

WAKOH

SDGsとともに進む

和光紙器のものづくり

NEVER STOP

EVOLVING



2024 REPORT



企業目標

「自覚」と「成長」を基盤に、
一人ひとりが情熱をもって当たり前に変革を起こし、
企業として信頼を育みながら、新たな価値を創造していきます。

CONTENTS

企業目標 _____ 01
目次 _____ 01

01 TOP MESSAGE _____ 02

02 会社概要 _____ 03

03 経営理念とSDGsへの取り組み _____ 05

04 CSR基本方針 _____ 07

05 マテリアリティとESGの視点 _____ 08

06 データでみるESG _____ 14

07 特集:2024年活動 _____ 15

08 SDGsへの思い(従業員の声) _____ 19

和光紙器 CSR報告書

2024年6月初版発行

原本：代表取締役 本橋志郎

デザイン：高田きよみ

協力：和光紙器従業員

09

TOPICS 2024 _____ 21

10

受賞・認定 _____ 22

01 TOP MESSAGE

CSRへの想いと私たちの価値観

和光紙器は、「ものづくりで進化させ続ける」をスローガンに、環境に配慮した包装資材の開発・製造を通じて、持続可能な社会の実現に貢献しています。私たちは、5つの考え方【情熱・誠意・自覚・正直・肯定】と7つの力【提案力・対応力・準備力・会話力・改善力・発想力・追求力】を大切に、「情熱をもって仕事に向き合う」ことを原点としています。やりがい、楽しさ、喜び——すべては情熱から生まれます。CSRやSDGsへの取り組みは、従業員の仕事への前向きな姿勢を育て、仕事に誇りを持てるような環境づくりにもつながっています。自分の仕事が社会の役に立っていると実感できることが、日々のやりがいや充実感にもつながっています。挑戦と変化を恐れず、想いを行動に。私たちは、現場から未来を変える力を信じています。

感謝を忘れず歩み続けるCSR・SDGs活動

今の和光紙器があるのは、これまで支えてくださったすべてのステークホルダーの皆さまのおかげです。その感謝の気持ちは、これからも決して忘れることはありません。私たちが取り組むCSRやSDGs活動の原点には、いつも「人への感謝」があります。

活動の始まりは、「SDGs とは何か?」という素朴な疑問からでした。知識も経験もない中、「まずはできることから」と始めた地域清掃が、地域とのつながりを生み、やがて次世代育成や防災、環境教育などへと広がっていきました。従業員の提案から生まれた活動も多く、皆で考え、行動し、少しずつ実を結んできました。段ボールケーキの寄贈や支援学校との連携、海岸清掃など、どれも「私たちにできること」から始まった小さな一歩です。その積み重ねが、和光紙器らしいCSR活動を形作っています。

これからも、支えてくださる皆さまへの感謝を忘れず、「ありがとう」を行動で伝える企業でありたい。CSRは、単なる社会貢献ではなく、私たちの存在意義を見つめ直す大切な活動だと考えています。

経営理念×CSR×SDGsのつながり

私たちの事業である「包装資材」は、使用後に不要となる存在です。だからこそ、製造段階から廃棄を出さず、再資源として循環させる責任があると考えています。「Polycolene®」シリーズは、100%リサイクル材を活用し、製造時に出る端材やロス材もペレット化して再利用することで、環境負荷の最小化を実現しています。さらに、従業員のアイデアから生まれた環境配慮型の担架や段ボールトレなどの展開を通じ、社会課題の解決にも取り組んでいます。また、「経

営理念」「SDGs活動」「環境への取組」を連動させ、すべての活動を同じ方向に進めることを大切にしています。

私たちがものづくりで最も重視しているのは、設備を導入することそのものではありません。設備は導入しただけでは力を発揮せず、その性能を引き出すことで真の技術力が生まれます。設備任せではなく、人の力で成熟させてこそ技術も現場も進化します。和光紙器の進化の原動力は、常に「人」にあります。

情熱を持ってものづくりに挑み、「和光紙器だからできること」を追い求める——それが、「私たち」らしさです。



代表取締役
本橋 志郎

サステナブル経営のビジョン

——サーキュラーエコノミーとともに

私が描くサステナブル経営のビジョンは、「和光紙器だからこそ実現できる価値」を追求することです。廃棄物を資源と捉え、再資源化による循環型社会の実現を目指すサーキュラーエコノミーを、製造の中心に据えています。使い捨てではなく活かし続けるという発想で、再資源の価値を高めながら、製品開発・運用のすべてにその思想を貫いています。経営理念・SDGs・環境対応を連動させ、持続可能な視点で判断と行動を進めています。ものづくりにおいては、情熱ある仕事こそが価値を生むと信じています。設備や技術も重要ですが、何より人が考え、工夫し、成長していくことこそが企業を進化させる原動力です。「私たちだからできること」と向き合い、社会に必要とされる企業として信頼を築き続けたいと考えています。従業員には、和光紙器で働くことを誇りに思ってもらいたい。その想いが、働く喜びとなり、地域や社会にも良い影響を広げていく。誰かのために、地域のために、未来のために——。

一人ひとりが自らの可能性を信じ、情熱をもって行動する。その積み重ねこそが、社会を動かし、未来を変えていく力になると私たちは信じています。

これからも和光紙器は、持続可能な社会の実現に向けて、真摯に、力強く、挑戦を続けてまいります。

2025年 和光紙器株式会社 代表取締役 本橋 志郎

02 会社概要

会社名
和光紙器株式会社

設立
1962年12月

資本金
3,000万円

従業員数
85名(2024年1月現在)

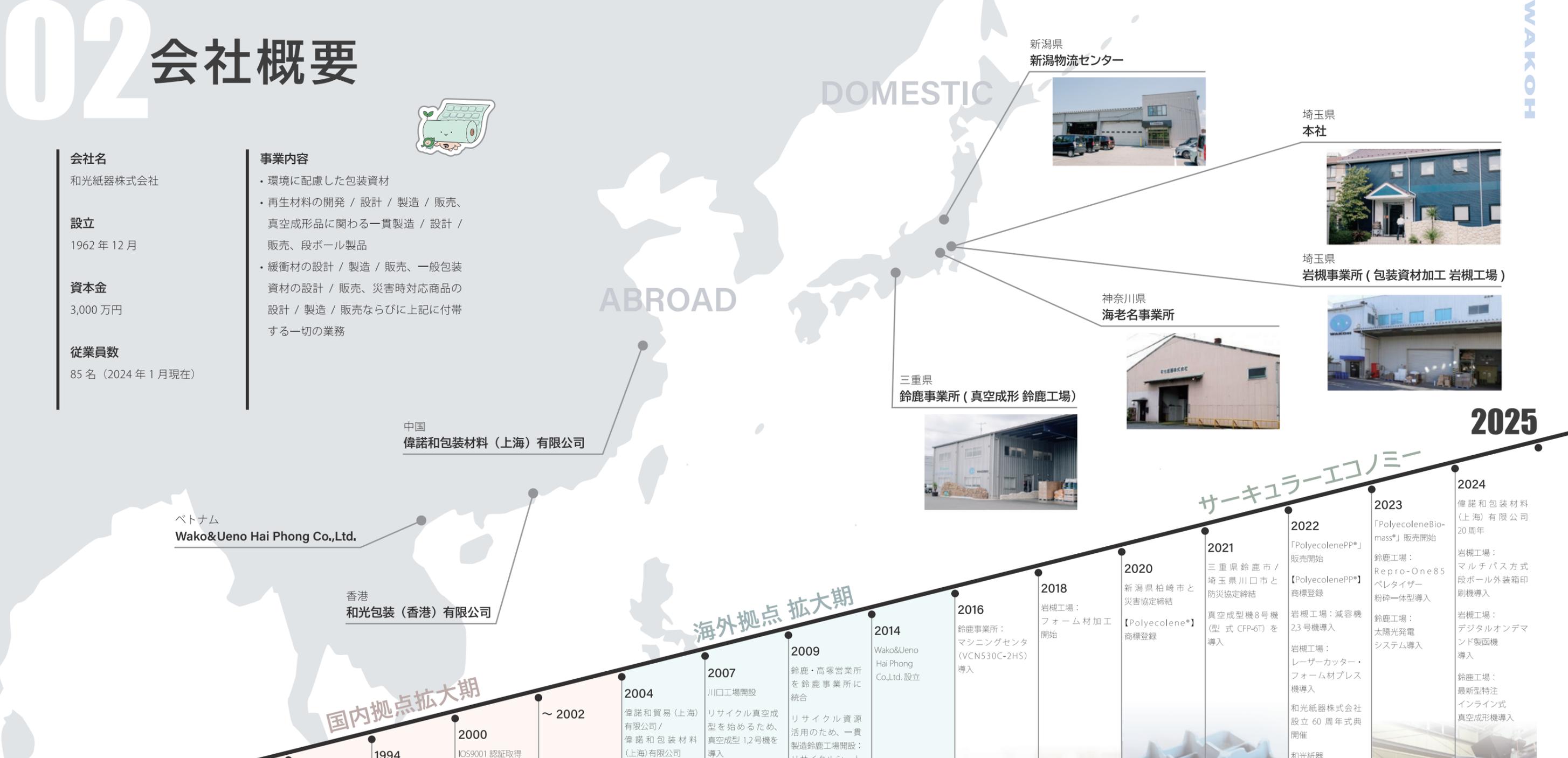
事業内容

- ・環境に配慮した包装資材
- ・再生材料の開発 / 設計 / 製造 / 販売、真空成形品に関わる一貫製造 / 設計 / 販売、段ボール製品
- ・緩衝材の設計 / 製造 / 販売、一般包装資材の設計 / 販売、災害時対応商品の設計 / 製造 / 販売ならびに上記に付帯する一切の業務



ABROAD

DOMESTIC



新潟県
新潟物流センター



埼玉県
本社



埼玉県
岩槻事業所 (包装資材加工 岩槻工場)



神奈川県
海老名事業所



三重県
鈴鹿事業所 (真空成形 鈴鹿工場)



中国
偉諾和包装材料(上海)有限公司

ベトナム
Wako&Ueno Hai Phong Co.,Ltd.

香港
和光包装(香港)有限公司

国内拠点拡大期

海外拠点拡大期

1949

川口市に包装資材販売を目的とした本橋商店を設立



設立メンバー

1984 ~

岩槻事業所 / 海老名事業所 / 鈴鹿営業所 / 岡崎営業所 / 新潟営業所を開設



工場建設風景

1993

試作体制拡充のためサンプルカッターを導入



1994

環境問題に対応するためT・Pの製造販売を開始



2000

IOS9001 認証取得



旧建物

~ 2002

2004

偉諾和貿易(上海)有限公司 / 偉諾和包装材料(上海)有限公司設立
和光包装(香港)有限公司設立
ISO14001 認証取得



上海拠点

2007

川口工場開設
リサイクル真空成型を始めるため、真空成型1,2号機を導入



川口工場開設

2009

鈴鹿・高塚営業所を鈴鹿事業所に統合
リサイクル資源活用のため、一貫製造鈴鹿工場開設：リサイクルシート製造用押出機導入



鈴鹿工場

2014

Wako&Ueno Hai Phong Co.,Ltd. 設立



シート押出

2016

鈴鹿事業所：マシニングセンター(VCN530C-2HS)導入



マシニング

2018

岩槻工場：フォーム材加工開始



フォーム材

2020

新潟県柏崎市と災害協定締結
【Polycolene®】商標登録



Polycolene®

2021

三重県鈴鹿市 / 埼玉県川口市と防災協定締結
真空成型機8号機(型式 CFP-6T)を導入



真空成型機

2022

「PolycolenePP®」販売開始
【PolycolenePP®】商標登録
岩槻工場：減容機2,3号機導入
岩槻工場：レーザーカッター・フォーム材プレス機導入



ワコろん

2023

「PolycoleneBio-mass®」販売開始
鈴鹿工場：Repro-One85ベレタイザー粉砕一体型導入
鈴鹿工場：太陽光発電システム導入



ベレタイザー

2024

偉諾和包装材料(上海)有限公司20周年
岩槻工場：マルチパス方式段ボール外装箱印刷機導入
岩槻工場：デジタルオンデマンド製函機導入
鈴鹿工場：最新型特注インライン式真空成形機導入



デジタル印刷機

2025
サーキュラーエコノミー

03 経営理念とSDGsへの取り組み

地域

私たちは健全な事業発展を通じて社会に貢献し、企業の社会的責務を果たします。

- 3 持続可能な開発目標 ・私たちができる「衣」「食」でつながる活動を推進します。
- 4 質の高い教育をみんなに ・私たちができる次世代教育につながる活動を企業内外共に行います。
- 11 持続可能な都市とコミュニティ ・地域の支援学校へ、和光紙器だから出来る事を見つけ協力していきます。
- 11 持続可能な都市とコミュニティ ・地域クリーン活動を全ての拠点で持続し続けます。
- 11 持続可能な都市とコミュニティ ・もしもの時の災害対応商品の開発を止めることなく進めます。

環境

私たちは地球環境の調和を図り広く社会に貢献します。

- 7 持続可能なエネルギー ・環境配慮型商品ポリエコレン® シリーズを通じて「廃棄物」から「再資源」に転換させます。
- 12 持続可能な消費と生産 ・包装資材を通じ、省資源化、コンパクト包装化、そして環境に良い包装設計を提案します。
- 13 気候変動に具体的な対策を ・循環資材を活用するサーキュラーエコノミーに向けたものづくりと開発を進めます。
- 14 海の豊かさを守ろう ・ものづくりを行う上で無駄な資源をなくし、生産効率を上げ環境に配慮していきます。
- 14 海の豊かさを守ろう ・環境に配慮した商品を扱うからこそ、定期的に環境に対する勉強会を実施します。

働き方

私たちの働きで豊かな価値を創出し、より良い社会を作ります。

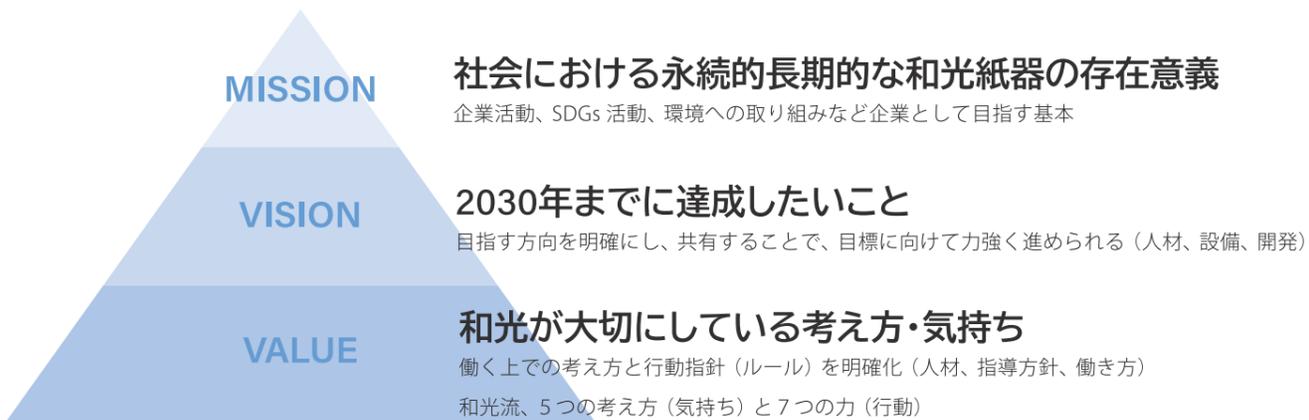
- 5 働きがい、経済成長、女性活躍 ・年齢性別問わず活躍できる働きがいのある職場環境づくり。
- 8 豊かで持続可能な雇用と経済成長 ・仕事と家庭の調和を図れる経営運営。
- 8 豊かで持続可能な雇用と経済成長 ・さまざまな分野の勉強会を取り入れ、従業員一人ひとりが講師となり教えあう機会を作ります。
- 9 産業・イノベーションの進歩 ・仕事作業効率を上げる事で、一人当たりの総労働時間の削減に取り組みます。
- 10 人や国・地域に富む ・多様な人材が活躍できる環境づくり。

つながり

私たちはCSR活動を通じて社会や環境と共存し、ステークホルダーからの信頼を得られるようにします。

- 17 持続可能なパートナーシップ ・サプライヤーの皆様を大切にし、お互いが尊重し合える関係を築いていきます。
- 17 持続可能なパートナーシップ ・地域の皆様へ感謝をし、関係づくりを大切にしていきます。
- 17 持続可能なパートナーシップ ・品質・環境方針は文書化し、関係関連会社及び全従業員に見える化をします。
- 17 持続可能なパートナーシップ ・CSR、BCPの取組みを進めていきます。

MISSION



VISION

誇れる営業・対応力に進化した
人材・製造・開発力で必要とされる
価値ある企業であること

環境に配慮した包装資材の
プロフェッショナルであること

経営		
今まで培った営業力+対応力を土台に進化した 製造力+開発力 で健全な経営運営を進めます。		
営業	対応	製造
プロフェッショナル集団を作り上げます。お客様に必要とされる高い専門知識を持つ人材、そして利益を常に追い求めます。	「スピード+正確+丁寧」どこにも負けない対応力。仕事を通じて感謝の気持ちを含めた対応をします。	エンジニアとして技術を磨き、生産性を高め、高品質かつ高レベルな誇れる製造工場を目指します。
開発	人材	差別化
自由なアイデアを大切に、お客様そして世の中が必要とする商品開発を止めることなく進めます。	人材育成には力を惜しまず、ひとりの人間として成長出来る場にします。	誇れる製造力×進化し続ける開発力=他社には出来ない情熱のつまった商品を提供します。

VALUE

5つの考え方

- 情熱 取り組む事に情熱を持つ。情熱のない仕事は仕事とは言わない。
- 誠意 ステークホルダーへの感謝の気持ちを持つ。
- 自覚 仕事に対しプロフェッショナルである事。自分の役割を果たす事。
- 正直 駆け引き上手になるよりも正直である事。
- 肯定 常に達成できる（肯定）方法を考える。

7つの力

- 提案力 相手が何を求めているのか理解し、深く考え、最適な提案が出来る力。
- 対応力 お客様・パートナー・地域との Win-Win 関係を目指す対応力+aスピードある対応。
- 準備力 何事もしっかり準備をしてから取り組む、進める事が出来る力。
- 会話力 伝達力+聞く力。会話を通じて理解しあえる力。報連相が徹底できる力。
- 改善力 1円1秒を大切に、常に上のゴールを目指し、止める事のない改善を進める力。
- 発想力 自由な発想・制限のない発想を大切に、それを形にしていく事の出来る力。



04 CSR基本方針



理念 × SDGs × ESG
をつなぐ
和光紙器の行動指針

私たちのCSRの考え方

和光紙器のCSRは、「企業理念を社会の中で具体的に実行すること」です。私たちは、環境に配慮した包装資材の製造・開発を通じて、地域・環境・人々との調和を図り、持続可能な未来を実現するために、日々の事業活動そのものをCSRと捉えています。このCSR活動は、理念（ミッション）を起点とし、SDGsを指針に据えながら、ESGの視点で具体的に推進しています。そして何よりも、従業員・地域・取引先など、全てのステークホルダーへの感謝の気持ちを忘れずに、共に成長し、信頼される企業であり続けることを目指します。

CSR基本方針(5つの柱)

1	想いをカタチにするCSR — 経営理念とSDGsを連動させて —	経営理念に掲げた4つのミッション（地域・環境・価値・信頼）をSDGsの目標と重ね、事業活動そのものが社会課題解決へとつながるよう、CSRを戦略的に展開していきます。
2	未来を見据えるESG戦略 — CSRをESG視点で整理し、未来ビジョンへ —	環境への責任（E）、社会との共創（S）、誠実な企業運営（G）という国際的なフレームワークに則り、CSR活動を明確に可視化・整理し、社内外へ継続的に発信します。
3	変化に応える柔軟な力 — 社会の変化を前向きに受け止める —	気候変動、災害リスク、労働環境の多様化など、変化する社会課題に対して、柔軟かつ誠実に対応する体制と価値観を大切にします。
4	共創と感謝の関係づくり — ステークホルダーと信頼を築く —	私たちの活動は、地域・従業員・取引先・協力会社など多くの支えによって成り立っています。その一人ひとりへの感謝の気持ちを原点とし、信頼を育みながら共に価値を創り出します。
5	一人ひとりが担うCSR — 従業員全員が「自分ごと」として行動する —	CSRは特別なことではなく、一人ひとりの仕事や言動そのものがCSRであるという考えを共有し、全従業員が「私には何ができるか？」を考え、行動する文化を育てます。

このCSR基本方針は、和光紙器が社会から必要とされる企業であり続けるための、行動の軸であり、信頼の源泉です。私たちはこれからも、「ものづくりで進化させ続ける」未来とつながる企業であることを目指し進んでいきます。

05 マテリアリティとESGの視点

社会とともに生きる企業として、本当にすべきこと

私たち和光紙器は、包装資材の製造・開発を通じて、社会や環境と共に歩む企業でありたいと考えています。その中で、「今、私たちが大切にすべきこと」を見つめ直し、『会社として重点的に取り組むべき課題＝マテリアリティ（重要課題）』として整理しました。マテリアリティは、私たちが信じる企業のあり方と、地域やお客様、社会から求められる期待が重なるところにあります。それは、ものづくりの姿勢や働き方、地域との関わりなど、和光紙

器のすべての行動の「軸」です。そしてこの課題は、経営理念（ミッション）を実行するための道しるべであり、SDGsとつながり、ESGの視点から具体的な行動へと展開していくための出発点でもあります。マテリアリティを意識することで、日々の仕事が社会につながっていることを実感しながら、私たちらしい「持続可能なものづくり」をこれからも進めていきます。

和光紙器では、マテリアリティをESGの視点で体系化することで、CSR活動を「理念の実践 × 社会課題対応 × 経営戦略」として明確に位置づけています。



今後も社会の変化やステークホルダーの声を受け止めながら、マテリアリティを軸に、より実効性のあるCSR活動を展開してまいります。



循環と脱炭素の ものづくりへ

循環資源・脱炭素・再エネ活用による環境負荷の最小化!



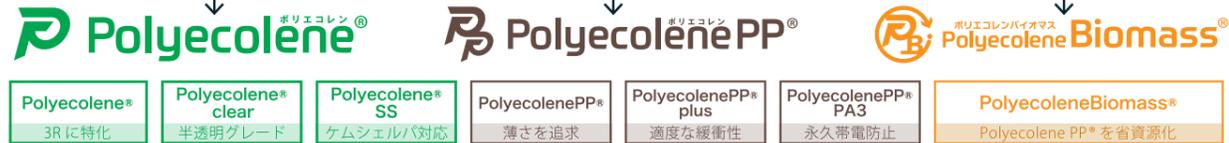
廃棄プラスチックの再資源化



「ポリエコレン®」シリーズは、100%リサイクル由来の素材を活用しています。
製造中に発生する端材やロス材はもちろん、使用後のポリエコレン製品も回収し、再び循環資源として生まれ変わらせることが可能です。
また、包装資材として使用される発泡緩衝材の加工時に発生する端材やロス材も、自社でリサイクルペレット化し、「ポリエコレン®」シリーズの原材料として再利用しています。

Polyecolene®シリーズ

つかう側もサーキュラーエコノミーへ取り組める 無駄な資源を生まない 循環資源から生まれる環境配慮型包装資材



CO₂排出削減



「ポリエコレン®」シリーズは、100%リサイクル由来の資源を活用しており、新たに採掘される化石資源を使用しないことで、原材料段階からのCO₂排出抑制につなげています。
また、製造工程で発生する端材やロス材も基本的に廃棄せず、すべて自社で再資源化。さらに鈴鹿工場では、太陽光発電とCO₂フリー電気を導入し、製造時の実質的なCO₂排出ゼロを実現しています。

サーキュラーエコノミー推進

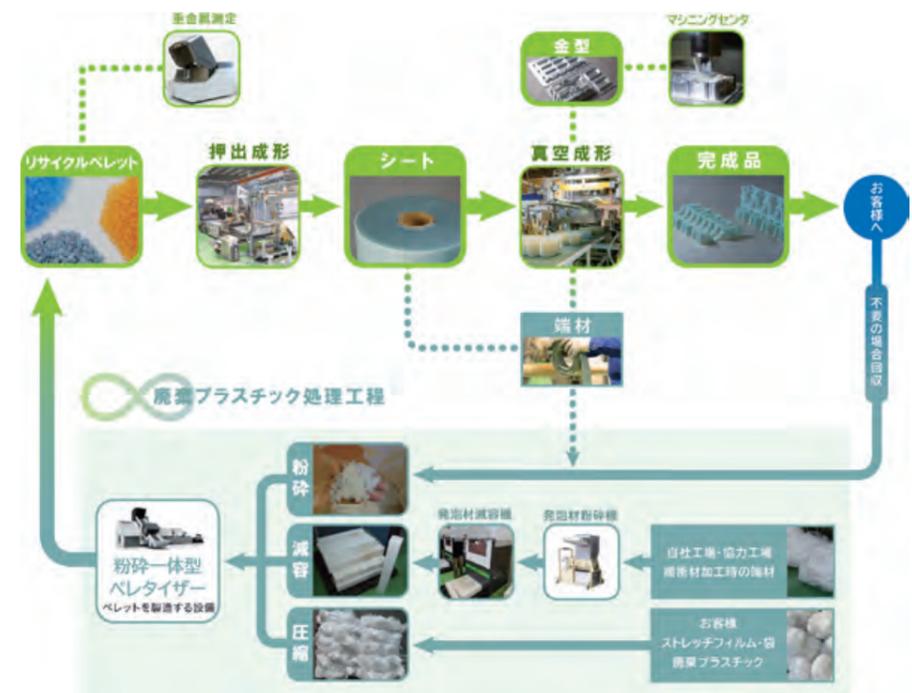
和光紙器株式会社はサーキュラーエコノミー（循環型経済）を推進しています。ものづくりにおける仕組み、そして包装資材を通じて取り組めるよう設備投資、製品開発をしています。
環境配慮型包装資材「ポリエコレン®」シリーズは、製造する側・利用する側の両方がサーキュラーエコノミーに取り組める包装資材です。

製造時に発生する端材やロス材はすべて自社でリサイクルペレット化し、再び製品の原材料として活用。さらに、使用後のポリエコレン製品も回収・再資源化が可能な設計と仕組みを構築しています。
製品設計から原料、使用、回収、再生に至るまで、無駄を生まない一貫体制を整えることで、企業としても、利用者としても「資源を循環させる」行動に参加できる環境を提供しています。



WAKOH式 サークュラーエコノミー

WAKOH式 一貫製造の仕組み



環境配慮に対する 和光紙器の基本方針

- ・持続可能なサーキュラーエコノミーを目指し、長期的なビジョンで取り組む
- ・廃棄するのではなく、今地球上に存在している資源（廃棄プラスチック）を活用していく
- ・リサイクル資源の価値を上げる（資源価値の回復）
- ・環境配慮型商品でも従来品と変わらぬコストで提供する
- ・環境に配慮した「ものづくり」を目指す
- ・私たちができることを考え、特性に合った形で進める



人と地域が輝く 職場と関係づくり

多様な人が活躍できる現場づくりと、地域・次世代への貢献！



地域との共創と次世代育成

— 小さな一歩から広がるつながりと未来 —

和光紙器のSDGs活動は、「SDGsとは何ですか?」という問いから始まりました。当初は知識も経験もない中で、何がSDGsの取り組みなのかすら分からず、手探りの状態でした。そんな中でも、「今できることから始めよう」という思いからスタートしたのが、地域でのクリーン活動です。各拠点で定期的の実施してきたこの活動は、今も継続されており、社員一人ひとりが地域とつながるきっかけとなりました。継続する中で、自治体や地域の方々

との新たなつながりが生まれ、その輪はやがて次世代育成支援(支援学校連携・出前授業など)や、地域特性を活かした防災活動(防災協定、防災グッズの開発など)へと広がっていきました。私たちは、SDGsの活動とは「特別なこと」ではなく、日々の行動を持続することで「できること」が自然に増えていくものだと実感しています。そしてその積み重ねが地域との信頼を育み、未来へつながる社会を形づくっていくと信じています。

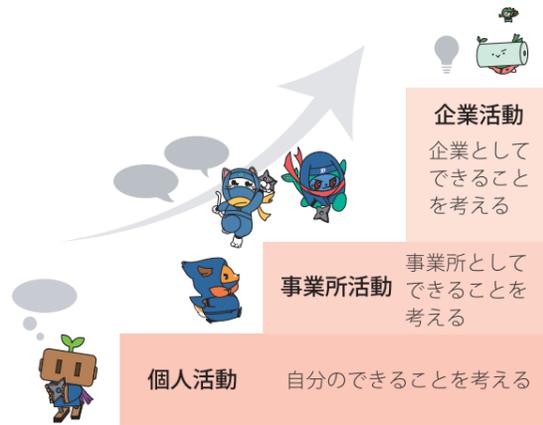


◆和光紙器のSDGs活動の進め方

和光紙器のSDGs活動は、個人の気づきや行動から始まり、事業所単位、そして企業全体へと広がる段階的な取り組みです。はじめから大きな目標を掲げるのではなく、「自分たちにできること」を無理なく続けることを大切にしています。小さな行動を持続することで、やがて大きな変化へとつながっていきます。



各事業所で行われるSDGs勉強会の様子



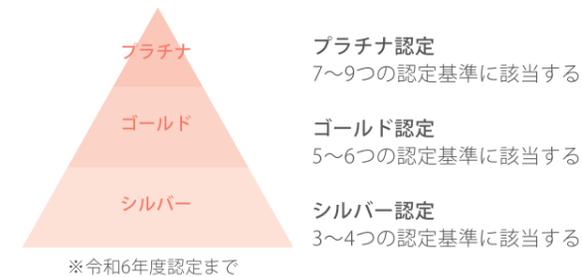
2024年SDGs個人活動表彰式

年末に行う「私ができるSDGs活動」での個人発表会の様子

◆「私ができるSDGs活動」発表会と表彰式

— 一人ひとりの思いが、会社全体の取り組みにつながる —
和光紙器では、毎年年末に「私ができるSDGs活動」をテーマにした個人発表会と表彰式を開催しています。この取り組みは、従業員一人ひとりが自分の立場や役割から「自分にできること」を考え、実際に取り組んだ内容や工夫を発表する場です。活動の大小に関わらず、日常の中で意識的に行ってきた行動を振り返り、仲間と共有することで、新たな視点や学びが生まれています。2024年の発表会では、「最優秀賞」「取組賞」「アイデア賞」「発表賞」「資料賞」といった多角的な視点で表彰を行い、それぞれの努力と創意をたたえ合いました。この発表会は、和光紙器が大切にしている「SDGs活動を自分ごととして捉える」姿勢を育み、持続可能な未来へとつながる文化の一つとなっています。

多様な人材の活躍の場づくり



和光紙器では、年齢・性別・経験に関係なく、すべての従業員が力を発揮できる環境づくりを進めています。その取り組みが評価され、埼玉県「多様な働き方実践企業」において、最上位であるプラチナ認定を取得しています(令和6年度現在)。この認定は、9つの基準のうち7項目以上に該当する企業に与えられるもので、働きやすさと柔軟な制度づくりの実績が求められます。誰もが安心して挑戦できる職場を目指して取り組みを続けていきます。

災害時に備える製品づくりと地域連携

◆従業員と共に考える防災グッズ

和光紙器の防災グッズは設計など専門の部署など問わず、従業員参加型で開発を進めています。使う人、そして管理する人のことを考えて開発を進めています。



◆地域との防災協定

和光紙器では、埼玉県川口市、三重県鈴鹿市、新潟県柏崎市と防災協定を結んでいます。また、その段ボール材料確保のために協会会社様とも防災協定を独自で結んでいます。





誠実で強い 企業体制をつくる

BCP・ISO による信頼性ある企業運営と品質・環境マネジメントの継続!



BCP(事業継続計画)の整備

- 事業継続計画基本方針
1. 従業員（家族）の安心・安全
 2. 顧客からの信用（供給責任を果たす）
 3. 周辺地域への協力・支援
 4. 企業としての競争力を高め、事業継続を行う

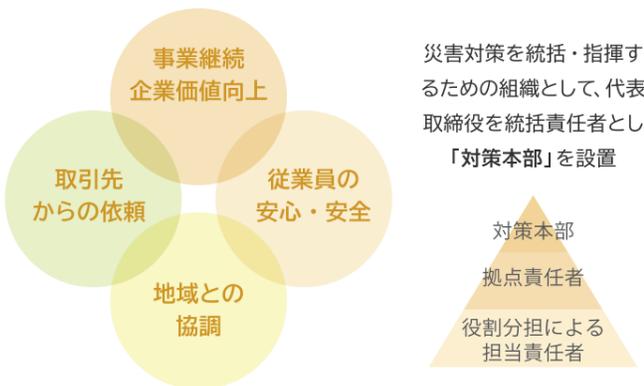
和光紙器では、自然災害や感染症などの緊急事態においても、製品の安定供給を継続できる体制づくりを重要な責任と考えています。

その一環として、災害・感染症に負けない事業継続計画(BCP)を策定・運用し、平常時からの備えと緊急時の対応について、社内での共有・訓練を継続しています。

また、2023年（令和5年）には、防災・減災に向けた取り組みを強化するため、「事業継続力強化計画(BCP)」を策定し、中小企業等経営強化法第56条第1項に基づき、経済産業省より認定を受けました。



従業員の安全とお客様への責任を両立するために、これからも実効性のあるBCP体制の整備と継続的な見直しを行ってまいります。



品質・環境マネジメントの見える化



和光紙器では、ISO9001（品質）及びISO14001（環境）の認証を取得し、製品の安定供給と環境負荷の低減を両立する体制を構築しています。方針や目標は文書化し、全拠点・全従業員に共有することで、社内外へ責任ある取り組みを「見える化」しています。今後も、品質と環境に配慮したものづくりを支える仕組みとして、継続的な改善を進めてまいります。

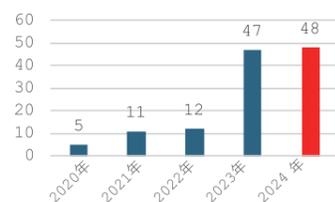
◆一人ひとりが進める「仕事の改善」提案

和光紙器では、すべての従業員が“自分の仕事をより良くする”視点を持つことを大切にしています。改善は特別な取り組みではなく、日々の業務の中で気づき、考え、行動することから始まります。

ここでは、各拠点から寄せられた仕事の改善提案件数（2020年～2024年）を可視化しています。このような見える化により、改善活動が年々着実に広がっていることが分かります。

提案の中には、業務効率の向上や安全性の確保、環境負荷の軽減に寄与するものもあり、こうした積み重ねが、働きやすさや品質の向上にもつながっています。今後も、一人ひとりが“できること”を見つけて動く文化を育て、全社で改善の輪を広げてまいります。

▼ 2020年～2024年全拠点改善件数



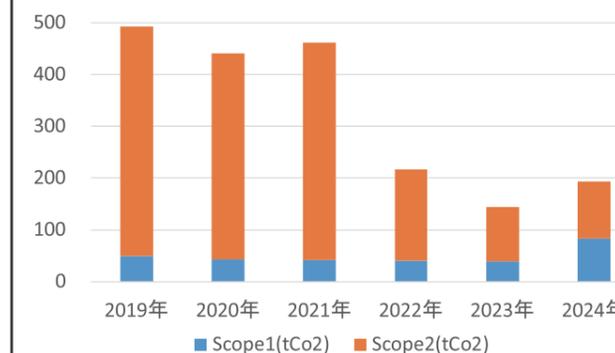
06

データでみるESG

温室効果ガス排出量の見える化と削減への取組

和光紙器では、事業活動における温室効果ガスの排出量を適切に把握し、その削減に向けた具体的な行動につなげていくために、CO₂排出量の見える化を積極的に進めています。その取り組みの一環として、各種認証機関から認定を受けた「Zeroboard」を活用し、算定方法やデータ連携の正確性を担保しながら、温室効果ガス排出量を定量的に把握しています。可視化されたデータは、全社的な環境目標の設定と進捗管理にも活用されています。今後も、製造工程の改善・再資源化・再エネ活用を通じて、環境負荷を最小限に抑えたものづくりを推進してまいります。

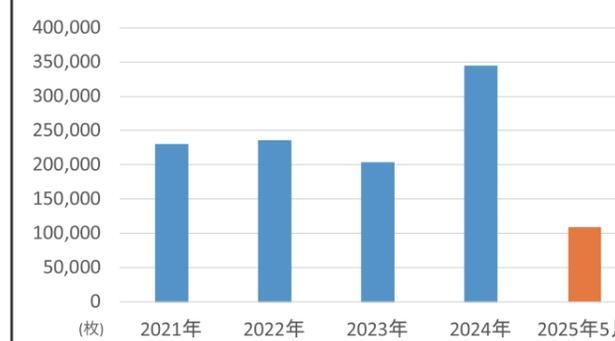
▼ 温室効果ガス排出量 (SCOPE1,2)



環境配慮型「ポリエコレン®」シリーズの出荷実績

和光紙器では、環境配慮型包装資材「ポリエコレン®」シリーズを通じて、循環資源とCO₂排出削減の取り組みを推進しています。2022年には、その取り組みが評価され、埼玉県銀行より「サステナビリティ・リンク・ローン(SLL)」の融資実行先として選定されました。また、累計販売枚数を指標としたサステナビリティ・パフォーマンス・ターゲット(SPT)も設定しています。「ポリエコレン®」シリーズの年間出荷枚数を可視化し、環境貢献の広がり事業の成長を両立する実績として紹介しています。

▼ 環境配慮型トレー出荷枚数 (KPI実績)



SDGsへの取り組みを“見える化”する情報発信

SDGsに関わる日々の取り組みを社内で終わらせるのではなく、社会へ共有することも大切にしています。地域清掃活動や支援学校との連携、勉強会、防災製品の開発など、一つ一つの行動がSDGsにつながっていることを、SNSやホームページを通して“見える化”し、社外にも発信しています。情報発信は単なる広報ではなく、従業員の誇りや共感のきっかけを育むものであり、同時に、地域や取引先との信頼関係を深める大切な架け橋にもなっています。今後もこうした“伝える取り組み”を大切にしながら、SDGsを「行動」と「共感」でつなぐ企業活動を継続してまいります。

▼ SNS例



▼ QRコード



<p>従業員数</p> <p>女性 40人 男性 40人</p>	<p>管理職比率</p> <p>女性 26% 男性 74%</p>	<p>平均勤務年数</p> <p>男性 12.38年 女性 10.05年</p>	<p>有給取得率</p> <p>80%</p>
----------------------------------	-----------------------------------	--	-------------------------

1. 2023年度 社長賞表彰式

企業バリューにふさわしい姿勢をもつ従業員を評価するため、社長賞1名、社長賞副賞2名、新人賞1名を選出し、表彰しました。



3.

● 大学での講演
三重大と四日市大学にて、未来を担う大学生向けに、サステナブル経営について講演を行いました。



2.

● 知事のふれあい訪問
和光紙器の取り組みに賛同されて、大野知事・奥ノ木川口市長・立石県議員が本社に来社し、懇談会を行いました。



4.

● 各拠点でのクリーン活動
SDGs活動を始めた際に、まずできることとして始まったクリーン活動。2024年も各拠点ごとに継続して行いました。



5. ● ウミガメを守る活動
ウミガメ骨格標本台の納品、そして海岸清掃活動に参加しました。



9. ● 段ボール工作の指導
埼玉県環境応援学習隊や鈴鹿市の工作教室で、小学生に段ボール工作の指導をしました。



6. ● 鈴鹿少年少女発明クラブ
鈴鹿少年少女発明クラブの開講式・閉校式に参加しました。



7. ● 段ボール製おもちゃ寄贈
とうぶ保育園様に、段ボール製の手作りおもちゃを寄贈しました。



10. ● 川口市市産品フェア2024に参加
災害への備えをテーマに、防災グッズ販売や工作、体験コーナーを設置しました。



8. ● 特別支援学校での活動の実施
特別支援学校大宮ろう学園に記念品寄贈、杉の子特別支援学校では設備の設置作業を行いました。



11. ● フードバンク活動
食品を寄付する取り組みに参加しました。



12. ● 巨大段ボールケーキ納品
さいたま市立南浦和小学校開校150周年を記念した段ボールケーキを制作しました。



小さな気づきが、自分を動かす力に

SDGs 活動に取り組む中で、部署の垣根を越えた会話が生まれ、職場のコミュニケーションが深まりました。勉強会では答えを出すのではなく、互いの意見を尊重し合う姿勢を学び、考え方の幅も広がったと感じています。また、個人活動を通じて「日常の中で自分にできること」を探る意識が身につく、行動も少しずつ変化しています。趣味と結びつけたテーマを見つけられるようになった今、SDGs が自分の生活にも自然と根づいてきました。

第二営業部
Hidetakaさん



次世代の子供たちに明るい未来を

最初は SDGs の目標が遠い世界の話のように感じていましたが、会社で学び、行動を重ねる中で「自分にできること」が見えてきました。海岸清掃や海ゴミアートなどを子どもと一緒に取り組んだ経験は、学びがなければ生まれなかった貴重な体験です。小さな行動でも、未来をよくしたいという思いがあれば、きっと誰かの役に立つと感じました。子どもたちと一緒に経験を重ねながら、明るい未来への一歩を踏み出したことに感謝しています。

業務課
Erikaさん



SDGsが教えてくれた「助け合い」の本質

SDGsについて学ぶ中で、すべての目標の根底には「助け合い」があることに気づきました。活動を通して、自分の小さな行動が誰かの役に立っていることを実感する機会が増えています。日常生活の中でも「これってSDGsにつながるかな」と考える習慣ができ、意識が大きく変わりました。今では、以前よりも自然に「誰かのために動きたい」と思うようになった自分に成長を感じています。

製造部
Toshihisaさん



小さな行動が心を満たし、日常を変えていく

はじめは何から取り組めばよいのか分からない中で、身近な環境問題に向き合い、小さな行動を重ねることで、心の豊かさを感じるようになりました。「誰かがやればよい」ではなく、「自分たちが動くべきだ」と思えるようになったのも、活動の機会を得られたからこそです。今では、日常生活の中でも「SDGsにつながることはないか」と考える視点が自然と身につきました。SDGsとの出会いが、自分自身の内面と行動の両方に変化をもたらしています。

試作課
Miyukiさん



今できることを考えるきっかけに

入社後に SDGs を学び、自分の何気ない行動も SDGs につながっていることに気づきました。勉強会や地域活動を通じて、自分も誰かの役に立てること、地域とのつながりの大切さを実感しています。特に子どもと一緒に SDGs に取り組むことで、自分自身の学びや成長にもつながってきました。これからも「未来の世代が住みやすい街になるように」という思いを込めて、行動していきたいです。

製造部
Toshitakaさん

08

SDGsへの想い 従業員の声

総務部
Shihoさん

伝える力が育った SDGs 活動
エコバッグやマイボトルといった表面的な意識から一歩進み、SDGsを“自分ごと”として捉えられるようになったことは大きな気づきでした。推進リーダーを務める機会をいただき、計画や進行に携わる中で、自ら行動する力や他者と対話する力が磨かれ、業務にも活かせる実践的な力が身につけてきたと感じています。活動を通じて、部署の垣根を越えたコミュニケーションや地域社会とのつながりも生まれ、視野が大きく広がりました。また、SDGsは社内外への“伝える力”を高めるきっかけにもなり、継続する中で学びと成長の深まりを実感しています。



物流部
Takahiroさん

関わることで見えてきた、新しい自分

人前で話すことに不安を感じながらも、仲間と一緒に SDGs の取り組みに関わる中で、自然とコミュニケーションへの意識も高まってきました。年始と年末の活動発表では、自分では気づけなかった学びや工夫に出会い、多くのことを吸収できたと感じています。身近なことから始めた取り組みも、まわりの人の考えや経験に触れることで、視野が大きく広がりました。資料にまとめて伝える姿勢にも刺激を受け、自分も成長したいという前向きな気持ちが強まりました。これからも社員一人として、学びながら自分なりの視点で SDGs に向き合っていきたいと思っています。



業務課
Hirokoさん

SDGsを知り、広げるきっかけになった私の一歩

SDGsをよく知らなかった私ですが、会社での活動や個人目標を通じて関わるうちに、少しずつ理解が深まりました。子どもに SDGs を伝えられるようになり、自由研究などで次世代育成にもつながったことは、自分にとって大きな成長でした。推進リーダーの役目をさせてもらったときには、年間スケジュールを立てて実行する中で、考えたことが形になっていく喜びを感じました。地域の方々の笑顔や協力のありがたさに触れ、活動を通して得られた経験や感謝は今も心に残っています。小さな取り組みの積み重ねが、地域に SDGs を広げる一歩につながれば嬉しいです。



製造部
Tomokoさん

SDGsが広げた視野と、自分で考える力

会社の SDGs 活動を通じて、こども食堂や療育施設など普段接点のなかった方々と出会い、視野が大きく広がりました。環境や平等について考える中で、「これで本当に良いのか」と問い続ける姿勢が身についたことは大きな学びでした。自分の行動に理由を持つ意識が育ち、ただ“良さそう”なことではなく、自分なりに意味を考えて取り組むようになりました。活動に協力してくれた仲間のありがたさも感じ、これからは自分の担当以外の社内活動にも前向きに関わっていききたいと思っています。



物流部
Tatsuyaさん

広がる視野、深まるつながり

SDGs への取り組みを通じて、環境や社会への意識が高まり、業務を超えた活発な意見交換や行動が広がっています。小さなアイデアの共有から新たな動きが生まれ、従業員同士の信頼や結束力を強め、職場全体に前向きな変化と新しい活力をもたらしています。また、「持続可能性」の視点を意識することで、より広い視野で物事を考えられるようになったと感じています。勉強会などを通じてコミュニケーション力も磨かれ、日々の仕事や選択に対する意識が前向きに変わってきました。SDGs は、会社全体と個人それぞれにとって、大切な学びと成長の機会になっています。





マスメディアへの露出



- 『伊勢新聞』 (2024年1月1日付)
- 『日経トレンディ』 (2024年4月号)
- 『レディオキューブ三重 FM 三重』 (2024年2月29日放送)
- 『柏崎日報』 (2024年8月6日付)
- 『中部経済新聞』 (2024年3月28日付、6月18日付)
- 『日刊工業新聞』 (2024年11月28日付)
- 『Newsweek 日本版』 (2024年10月1日付)
- etc.

「私たちだからできること」の社会発信

和光紙器では、企業の実践を社会と共有することも大切な責任と考えています。その一環として、大学の他「みえの魅力的な企業を学ぶフォーラム」「埼玉県 SDGs 官民連携プラットフォームシンポジウム」「埼玉グリーン購入ネットワークオンラインセミナー」「エコプロ 2024」でも講演を行い、サステナブル経営や環境配慮型ものづくり、サーキュラーエコノミーの重要性を発信してきました。



環境に配慮した防災グッズ

和光紙器では、従業員参加型で防災グッズの開発を進めています。2024年には「携帯トイレ：POLET」や「段ボール製トイレ：WAKOH 式トイレ」の販売を開始しました。さらに、2023年に開発・販売を開始した「環境に配慮した担架：ポリエコレン® 担架」は高く評価され、2023年には『日経トレンディ』、2024年には『今の大ヒットはこれだ!!』をはじめ、各種マスコミにも取り上げていただきました。



導入設備



セミオートグルアー：コロンプス



デジタルオンデマンド製函機：Intelligent Box 3000Pro



マルチパス方式段ボール外装箱印刷機：WonderJet WD250-16A++



最新型特注インライン式真空成形機：脇坂エンジニアリング CF-6T

受賞・認定 (2020年以降)

2020

新潟県柏崎市と災害協定締結
「Polyecolene®」川口 i-monoブランドに認定
埼玉県SDGs取組企業として認定

2021

埼玉県SDGsパートナー認定
「避難所用WAKOH式段ボールパーテーション」川口新商品等開発振興奨励制度受賞
「WAKOH式段ボールベッド」防災グッズ大賞受賞

2022

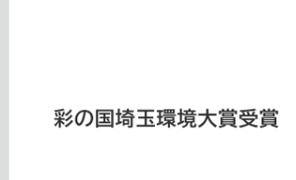
「川口の元気経営大賞 CSR・SDGs 推進賞」受賞
三重県 SDGs 推進パートナー認定
埼玉県川口市と防災協定を締結
三重県鈴鹿市と防災協定を締結
「はばたく2021 中小企業・小規模事業者300社」受賞



本社/岩槻工場 彩の国工場認定



第一回彩の国 SDG s 技術賞受賞



彩の国埼玉環境大賞受賞



「埼玉ちゃれんじ企業経営者表彰」特別賞受賞

2023

「多様な働き方実践企業」プラチナ企業認定
「健康経営優良法人2023」中小規模法人部門に認定
事業継続力強化計画 (BCP) 認定

◆「三重のサステナブル経営アワード」受賞
「環境への配慮・脱炭素」「次世代育成の推進」「地域社会への貢献」「従業員満足度の向上」の4つの取組を實踐し、環境への配慮などで持続性可能性の高い企業をたたえる「三重のサステナブル経営アワード」を受賞しました。



2024

経済産業省「サーキュラーパートナーシップ」参画
Newsweek 日本版「SDGsアワード」パートナー企業認定
「健康経営優良法人2024」中小規模法人部門に認定

◆彩の国埼玉環境大賞奨励賞受賞
「彩の国埼玉環境大賞」の表彰式にて、和光紙器は奨励賞を受賞しました。今回で2度目の受賞となります。令和5年度となる当社のテーマは、「今ある資源を活用する WAKOH 式サーキュラーエコノミーへの挑戦」です。

リサイクル×バイオマスから生まれる次世代型環境包装資材の開発に注力し、自社工場で発生する端材やロス材を循環資源として活用していきます。その取り組みが評価され、今回の受賞へと繋がりました。

